

平成26年度宝塚さざんか福祉会事業報告

事業所の利用者受け入れについては、年度末で総定員268名に対し280名で12名の定員超過となりました。定員超過の最も多い事業所は宝塚あしたば園の7名ですが、前年度にバリアフリーの作業所に改修した安倉南作業所に9名の利用者を受け入れることができ、比較的円滑な支援を行うことができました。

施設改修については、県補助事業として「宝塚さざんかの家」の経年による損傷の激しい外壁修繕と狭隘で支援に支障をきたしていた1階男女トイレの改修工事を実施、また消防法施行令の改正で義務付けられた、グループホームのスプリンクラーを桜ガ丘ホーム1・2に設置しました。このほか、雨天時に不便をきたしていたワークプラザの裏庭グラウンドをアスファルト舗装し、グラウンド周囲に排水用側溝を設けました。

経営ビジョンの策定については、平成25年度に策定した法人理念の実現に向けて、当面、3～5年の間に優先的に取り組む施策を策定するため「ビジョン策定委員会」を設置し、「新規利用者の受け入れ」、「利用者の地域生活支援」など7項目にわたる優先施策を策定しました。

グループホームについては、職員の確保ができなかったため平成26年度へ開設が持ち越しになった安倉南地区の安土夢ホーム1を、職員の確保ができたことにより7月1日に開設しました。

職員の確保については、民間の求人活動の活発化にともなって福祉分野への求職者が少なく、昨年度と同様頻繁に採用試験を行いましたが、十分な新卒者を確保することができませんでした。人材確保が今後の大きな課題となっています。

事故防止については、平成25年に発生した「いきいき宝夢」での死亡事故を教訓に、再びこのような事故を起こさないため、全事業所に事故防止担当者を置き、担当者による事故防止委員会を設置しました。委員会では、過去の事故事例の集約及び原因別の検証を行い、今後はこれを基に事故防止マニュアルの作成等について検討していきます。また、昨年度はリスクマネージャー養成講座（5日間）へ所長2名を派遣しましたが、今後、その成果を事故防止委員会等へ反映していきます。

宝塚市の委託事業である就労支援事業については、全障害で前年と同じ28名が就労（就労継続A型事業所を除く）し、うち6名が離職しました。知的障害に限れば、それぞれ19名と2名で、当

法人利用者の就労は4名で離職者はありませんでした。

相談支援事業については、相談件数が1,348件から3,192件へと大幅に増加しましたが、これは、平成26年度が計画相談事業の最終年度であったことが増加の主な要因でした。なお、本事業に基づく計画策定は365件でした。

財政面では、事業活動収支計算書にみるように福祉事業活動収支で2,629万円余の差損が生じました。これは、昨年度までの収支計算方法では1,982万円余の差益でしたが、本年度決算より支出の引当金繰入に、賞与引当金繰入4,600万円余を加えたことが原因です。